



水前寺江津湖公園利活用・保全計画（素案）【概要版】②

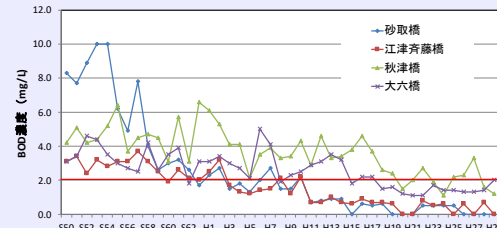
2. 現状と課題

水環境の保全（湧水量の減少とごみの堆積などによる湖の汚染）

湧水量は回復の兆しが見られるものの、長期的に見ると減少しており、昭和35年頃には、約90万トン/日あったとされる湧水量も、現在では約47万トン/日まで減っています。水質は、公共下水道の整備により大きく改善されているものの、流入河川などからのごみの堆積やマイクロプラスチックによる汚染など、水環境の保全に関わる課題を抱えています。



（江津湖湧水量の推移）



（江津湖周辺の水質経年変化（BOD75%値））



（流入河川からのごみの堆積）

自然環境の復元（外来生物の繁殖）

江津湖の恵まれた湧水により、様々な植物・昆虫・鳥類・魚貝類等が調和し、豊かな自然環境を創り出してきました。しかしながら近年では、オオクチバスやボタンウキクサなどの外来生物の繁殖により、本来の自然環境が変化し、生物多様性が損なわれつつあります。



（ブルーギル）



（カダヤシ）



（オオクチバス）



（ブラジルチドメグサ）



（ナガエツルノゲイトウ）

地域資源の活用（埋もれている歴史・文化資源）

湧水を活かし優れた庭園景観を有する水前寺成趣園などの大名庭園群や、明治の文豪夏目漱石がボート部の部長として足を運び、この地の自然を詠んだ俳句をつくるなど、清れつな湧水が多くの人を惹きつけ、江津湖には、多くの歴史文化資源が存在します。この貴重な歴史文化資源を活用、継承していくための環境整備が必要です。



（水前寺成趣園）



（旧細川砂取邸）



（漱石の句碑）



文化の継承（失われつつある風俗習慣・文化）

岸辺のヨシは“よしず”の材料になり、藻は畑の肥料となっていました。江戸時代から明治にかけての自然と人との関わり・生業は、環境の維持、バランス保持につながっていました。その暮らしと環境の中で引き継がれてきた水前寺ノリや水前寺もやしも失われつつあります。

公園価値の創造（魅力の発掘発信→担い手）

これまでの公園行政は「公園を守る」という視点に重点を置いてきたことから、必ずしも市民のニーズを満たしてきたとは言えず、江津湖への関心も薄れつつあります。江津湖のポテンシャルである豊かな自然環境とともに、これまで培われてきた歴史・文化を活かし、公園魅力の価値を高めていく必要があります。



<行催事を活用した魅力の発信>

熊本市では、水前寺江津湖公園の魅力発信につながる行催事として、2020年秋のアジア・太平洋水サミット、2022年春の全国都市緑化フェアの開催を控えています。

→水前寺江津湖公園の「魅力」をあらためて見つめ直す絶好の契機であり、その魅力・価値に磨きをかけ、これら行催事を通じて国内外に広く発信していかなければなりません。

動植物園と水前寺江津湖公園の有機的な連携と一体的活用

動植物園と水前寺江津湖公園は、隣接しているものの一体性に乏しく、ポテンシャルを十分に活かし切れていない状況にあります。一体的な「整備」「利用」「管理（マネジメント）」による新たな価値を生み出していく必要があります。



（動植物園の老朽化した施設）



（動植物園と江津湖の分断）
※写真：植物園→江津湖

パークマネジメント

厳しい財政状況の中、多くの公園で施設の老朽化が進んでいます。水前寺江津湖公園も同様であり、126haを超える広大な敷地に多くの公園施設が点在しており、適正な更新が必要になっています。

→効率的・効果的な公園の運営・維持管理手法（パークマネジメント）の検討を進めていく必要があります。



（老朽化したベンチ）



（老朽化した看板）



（老朽化した照明灯）

<民間との連携の加速>

既存ストックとしての公園の再生・活性化の推進のための法改正（2017.6）が実施されました。

「量を整備するステージ」から「公園の多機能性を最大限に発揮するステージ」へ展開

→Park-PFI（パークPFI）制度の創設

<多様な主体の参画による公園づくり>

市民、地域団体、関連団体、事業者など、多様な主体の参画による公園づくりにより、公園利用幅の拡大とともに、新たな担い手の発掘・育成につなげていく必要があります。

水前寺江津湖公園利活用・保全計画（素案）【概要版】③

3. 計画の内容

◆ 計画の概要

目的・背景

- 江津湖は、阿蘇の大噴火により形成された水循環のしくみによって、豊かな地下水が湧出する「水の都くまもと」のシンボルであり、人と自然が関わり共生してきた市民の憩いの場所です。
- 一方、自然環境の保全や歴史・文化資源の活用、公園施設の老朽化や市民ニーズの多様化に伴う対応など、公園を取巻く様々な状況への対応が求められています。
- そこで、江津湖の持つ価値をあらためて見つめ直し、今日の直面する課題を解決していくとともに、自然と人との共生による持続可能性を見出し、この貴重な財産を次の世代へ継承していくため、保全と利活用の両面から本計画を策定します。

計画の対象区域

「水前寺地区」「出水地区」「上江津地区」「下江津地区（動植物園含む）」「広木地区」「庄口地区」の6地区（計126.9ha）のうち、公園として供用している区域

計画の対象期間

2020年度から2029年度までの10年間
stage1：2020～2021年度（全国都市緑化フェアまで）、stage2：2022～2029年度

◆ 計画の位置づけ

- 本計画は、水前寺江津湖公園の「自然環境・歴史文化資源の保全」と「公園の利活用」の両面における今後の方向性と具体的な取り組みを示したものです。
- 本計画を、市民・事業者・関連団体・行政等が共有し、それぞれの役割を認識して、着実な事業推進を図り、公園の持つ魅力を広く発信していくものとします。

熊本市第7次総合計画（目標年次：2023年）

【目指すまちの姿】市民が住み続けたい、だれもが住んでみたくなる、訪れたくなるまち、「上質な生活都市」



第2次熊本市都市マスタープラン（目標年次：2025年）

【目指すまちの姿】豊かな水と緑、多様な都市サービスが支える活力ある多核連携都市



水前寺江津湖公園利活用・保全計画（目標年次：2029年）

【基本理念】「湧水により育まれてきた自然と人との共生」の継承

熊本市動植物園マスタープラン
（目標年次：2029年）

◆ 基本理念

江津湖の持つ価値をあらためて見つめ直し、今日の直面する課題を解決していくとともに、自然と人との共生による持続可能性を見出し、貴重な財産を次の世代に引き継ぐため、基本理念を掲げます。

基本理念：「湧水により育まれてきた自然と人との共生」の継承

これからも守り育てるべき価値



◆ 基本方針

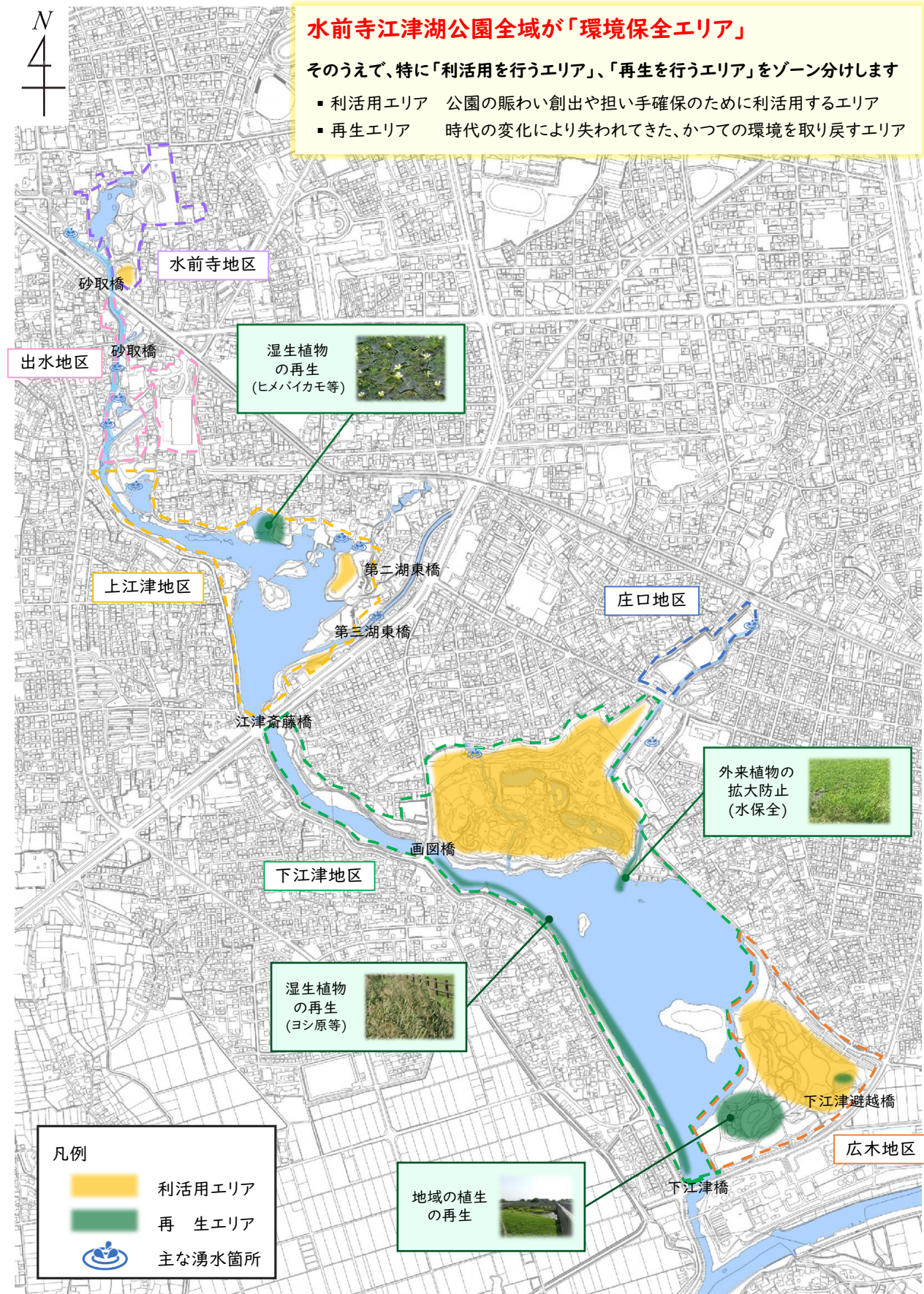
自然環境・歴史文化の保全

- 基本方針① 大地が育む豊かな水環境と水循環の保全
- 基本方針② 生物多様性の保全と自然と人との共存・共生
- 基本方針③ 歴史・文化の活用と次世代への継承
- 基本方針④ 江津湖の資産・資源の継承と発信

公園の利活用

- 基本方針⑤ 江津湖のポテンシャルを活かした空間の創出
- 基本方針⑥ 適切な公園経営と次世代への資産運用
- 基本方針⑦ 持続性のある運営手法と担い手づくり





水前寺江津湖公園利活用・保全計画（素案）【概要版】⑤

3. 計画の内容

◆ 地区別の方針と主要事業

水前寺地区 ～水前寺成趣園と連携した歴史・文化を学ぶ空間～

- ・大名庭園である水前寺成趣園と連携し、歴史・文化を学ぶ空間とします。
- ・江津湖との一体性や連続性を高めることで、多くの人が江津湖を訪れるような空間としていきます。

景観整備

- 歩いて楽しめるスポット化
- 【目標期】stage2
- 【実施者】熊本市



（散策路）



地区の一体化

- サイン等による連続性の演出
- 【目標期】stage1
- 【実施者】熊本市、企業



（水前寺成趣園サイン）

上江津地区 ～昔ながらの情緒豊かな風景美と生物多様性を保全する空間～

- ・江津湖を象徴するエリアとして、これからも昔ながらの情緒豊かな風景美と生物多様性を保全する空間としていきます。
- ・江津湖が誇る豊かな自然環境と新たな魅力の発信を通じ、休日、家族連れがいつまでも訪れるような空間をつくっていきます。

ゾウさんプールの再整備

- かつての賑わいを取り戻す
- 【目標期】stage1
- 【実施者】熊本市、ボランティア、地域団体



（ゾウさんプール）



森と水の都の基盤づくり

- イベントを活用した地元農産物の販売
- 【目標期】stage1 「水の駅」など
- 【実施者】熊本市、企業



（マルシェ）

広木地区 ～幅広い世代が様々なアクティビティを楽しめる空間～

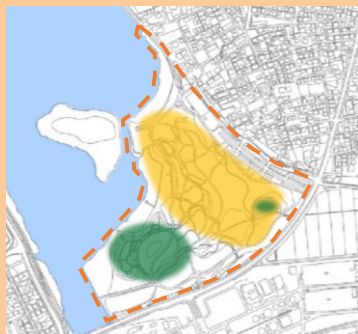
- ・子どもからお年寄りまで幅広い世代が、自然体験・体感型プログラム等、様々なアクティビティを楽しめる空間としていきます。
- ・自然と人との共存・共生の象徴としての多様な環境づくりを進めていきます。

自然観察会の実施

- 環境保全へのきっかけ
- 【目標期】stage1
- 【実施者】関連団体、企業



（春の草花遊び）



新たな遊び場づくり

- 江津湖へ興味を持つきっかけづくり
- 【目標期】stage1
- 【実施者】熊本市、企業



（グランピング）

出水地区 ～自然環境を感じ健康づくりの発信拠点となる空間～

- ・きれいな水や豊かなみどりに囲まれ、生きものや自然環境を感じる空間としていきます。
- ・子どもの遊び場（ちびっこプール、ゾウさんプール）や自然を楽しむ散策ルートを整備するとともに、県立図書館や市総合体育館と連携した歴史文化と健康づくりの発信拠点としていきます。

ガイドツアーの実施

- 歴史文化資源の魅力発信
- 【目標期】stage1
- 【実施者】県立図書館、関連団体、企業



（ガイドツアー）



公園を核とした健康づくり

- 体育館と連携したプログラム
- 【目標期】stage1
- 【実施者】熊本市、市総合体育館、関連団体



（ヨガ）

下江津地区 ～動植物園と連携した魅力あふれる空間～

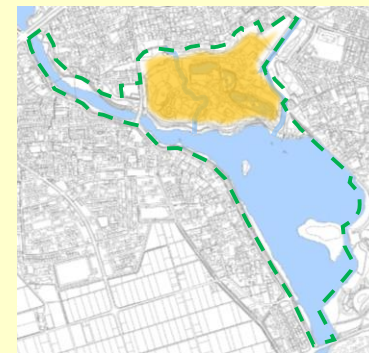
- ・かつては夏目漱石がボート部長として指揮をとったエリアで、豊富な湧水や四季折々の植物、この地に生息する希少な生きものを感じられる空間としていきます。
- ・動植物園と江津湖の一体性を高め、魅力あふれる空間をつくっていきます。

情報発信の場づくり

- 江津湖の情報を集積発信
- 【目標期】stage2
- 【実施者】熊本市、関連団体



（江津湖ジオラマ）



動植物園との一体化

- ハード・ソフト両面での連携強化
- 【目標期】stage1
- 【実施者】熊本市、企業



（展望デッキ）

庄口地区 ～様々な運動を楽しめるプロムナード空間～

- ・子どもからお年寄りまで様々な運動を楽しめる空間としていきます。
- ・江津湖の湧水群の一つでもあり、きれいで豊かな水の流れを活かしたプロムナード空間としていきます。

地下水の保全・PR ※全域

- 熊本の宝の保全
- 【目標期】stage2
- 【実施者】熊本市、関連団体



（湧水）



園路・景観整備

- 歩いて楽しめるプロムナード空間
- 【目標期】stage2
- 【実施者】熊本市



（水を活かした散策路）

水前寺江津湖公園利活用・保全計画（素案）【概要版】⑥

4. 事業展開

◆ 事業展開スケジュール（自然環境・歴史文化資源の保全）

基本 理念		基本方針	取組み項目	施策事業	地区	実施者	目標 stage	stage1		stage2									
								R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029		
湧 水 に よ り 育 ま れ て き た 自 然 と 人 と の 共 生 の 継 承	自然環境・歴史文化資源の保全	①大地が育む豊かな水環境と水循環の保全	①-1 豊富な地下水の保全	①-1-1 江津湖の湧水調査	全域	熊本市 くまもと地下水財団	2	調査	モニタリング	調査	モニタリング	調査							
				①-1-2 江津湖の水質調査	全域	熊本市	2	事業継続											
			①-1-3 マイクロプラスチック対策	全域	熊本市	2	検討	実施											
			①-2 湧水を育む上流域とのつながり	①-2-1 水源かん養林で育まれた間伐材を使用したベンチの設置	上江津	熊本市	1	設置	供用										
				①-2-2 上流域との交流を通じた水循環の学び	上江津	熊本市、くまもと地下水財団 上流域自治体、関連団体	2	検討	社会実験	実施									
			①-3 地下水・湧水のPR	①-3-1 地下水について学び・楽しめるガイドツアーの実施	全域	熊本市 くまもと地下水財団、関連団体	1	検討	実施	事業継続									
		②生物多様性の保全と自然と人との共存・共生	②-1 自然環境の現状把握	②-1-1 生物の生育・生息状況調査の実施	全域	熊本市 関連団体	2	調査	モニタリング	調査	モニタリング								
			②-2 自然環境の保全・再生	②-2-1 生物の生育・生息環境の保全・再生	全域	熊本市 関連団体	2	スキーム検討	実施	効果検証	実施								
			②-3 外来生物の防除の推進	②-3-1 外来生物防除計画の策定・運用	全域	熊本市 関連団体	2	スキーム検討	策定	事業実施	改定	事業継続							
		③歴史・文化の活用と次世代への継承	③-1 歴史・文化資源の保存と活用	③-1-1 旧砂取細川邸庭園の保存活用	出水	熊本市 県立図書館	1	整備	保存活用										
				③-1-2 国指定天然記念物「スイゼンジノリ発生地」の保全	上江津	熊本市	2	事業継続											
				③-1-3 既存の文学碑を活用した魅力の発信	出水ほか	熊本市 県立図書館	1	検討	実施	事業継続									
				③-1-4 庭園文化を活用した魅力の発信	出水ほか	熊本市 県立図書館、関連団体	1	検討	実施	事業継続									
		④江津湖の資産・資源の継承と発信	④-1 魅力・価値の発信	④-1-1 情報発信の場づくり（情報の集積）	下江津	熊本市 関連団体	2	検討	整備	情報発信	改良	情報発信							
				④-1-2 江津湖散策ルート・マップの作成・運用	出水ほか	熊本市 県立図書館、関連団体、企業	1	作成	運用										
				④-1-3 ガイドツアーの実施	出水ほか	熊本市 県立図書館、関連団体、企業	1	検討	実施	事業継続									
				④-1-4 森と水の都の基盤づくり	上江津	熊本市 企業	1	検討	社会実験	事業継続									
				④-1-5 自然観察会の実施	上江津 広木	熊本市 関連団体、企業	1	検討	実施	事業継続									
			④-2 担い手づくりと次世代への継承	④-2-1 環境学習の実施	上江津	熊本市 県立図書館、関連団体	1	検討	実施	事業継続									
				④-2-2 新たな担い手や語り部の育成	全域	熊本市 県立図書館、関連団体	2	スキーム検討	社会実験	事業継続									

4. 事業展開

◆ 事業展開スケジュール（公園の利活用）

基本 理念		基本方針	取組み項目	施策事業	地区	実施者	目標 stage	←stage1→		stage2→		R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029		
湧 水 に よ り 育 ま れ て き た 自 然 と 人 と の 共 生 の 継 承	公 園 の 利 活 用	⑤江津湖のポテンシャル を活かした空間の創出	⑤-1 遊び場づくり	⑤-1-1 新たな遊び場づくり（イベントガイドライン）	全域	熊本市 企業	1	社会実験	実施														
				⑤-1-2 国際観光重点地域（仮称）	水前寺 出水	熊本市 企業	1	検討・整備	情報発信														
				⑤-1-3 ちびっこプールの再整備	出水	熊本市	1	整備	供用、清掃														
				⑤-1-4 ゾウさんプールの再整備	上江津	熊本市 ボランティア、地域団体	1	社会実験	供用														
				⑤-1-5 ペットを介した交流の場の確保	上江津	熊本市 企業	2	検討						社会実験	整備	供用							
			⑤-2 園内の回遊性向上	⑤-2-1 景観整備	水前寺 庄口	熊本市	2	検討			設計	整備	供用										
				⑤-2-2 遊歩道・サイクリングロードの整備	全域	熊本市	1	整備	供用														
				⑤-2-3 移動手段の確保	全域	企業	2	検討	社会実験	実施													
			⑤-3 健康プログラムの展開	⑤-3-1 公園を核とした健康づくり	出水 上江津	熊本市 市総合体育館、関連団体	1	検討	整備	事業継続													
			⑤-4 職場空間としての活用	⑤-4-1 OSOTO会議	上江津 広木	熊本市 企業	2	社会実験	検討	実施													
			⑤-5 動植物園との一体的な整備	⑤-5-1 動植物園との一体化	下江津	熊本市 企業	1	Ⅰ期整備	Ⅱ期整備												供用		
			⑤-6 施設の整備	⑤-6-1 地区の一体化（デザインの統一）	水前寺 出水	熊本市 企業	1	Ⅰ期整備	Ⅱ期整備						供用								
				⑤-6-2 駐車場不足への対応（拡充・連携）	全域	熊本市 企業	2	検討、社会実験						整備	供用								
			⑤-7 情報の発信	⑤-7-1 江津湖アプリの開発	全域	熊本市 大学、企業	1	検討	開発	運用													
		⑥適切な公園経営と 次世代への資産運用	⑥-1 民間活力の導入	⑥-1-1 P-PFIを活用した魅力向上施設の設置	全域	熊本市 企業	2	スキーム検討	公募	整備	供用												
			⑥-2 マーケティングによるブランド化	⑥-2-1 江津湖の水、地域産物のブランド化	全域	熊本市 企業、周辺事業者	2	スキーム検討						マーケティング	整備	実施							
			⑥-3 防災・減災機能の強化	⑥-3-1 公園のポテンシャルを活かした防災・減災機能の強化	全域	熊本市 企業、関連団体、地域団体	2	スキーム検討						社会実験	検証	整備	事業実施						
		⑦持続性のある運営手法 と担い手づくり	⑦-1 人材育成・担い手づくり	⑦-1-1 公園運営の担い手（キャスト）の発掘と育成	全域	協議会メンバー	2	スキーム検討			事業実施												広報PR
			⑦-2 エリアマネジメントの導入	⑦-2-1 エリアマネジメントによる公園運営	全域	協議会メンバー	2	スキーム検討			社会実験	事業実施								情報発信			
			⑦-3 効果的な事業展開・事業検証	⑦-3-1 公園の質を評価するための仕組みづくり	全域	協議会メンバー	2	スキーム検討						WS開催	事業実施				事業検証				